

タイムマシン

天満 天五 いまむかし

波多野

泉

私が今の診療所がある天神橋五丁目を東に少し入った池田町という町に引越してきたのは昭和30年（1955年）の秋、3歳の時でした。大阪の空襲で焼け野原となったこの界隈も、戦争が終わって10年、朝鮮戦争を経て日本の経済と共にどんどんと活気づいてきたころだったのでしょう。商店街も復興し、天満卸売り市場にもせりの声と鐘の音が朝まだ暗いうちから響いていました。私は現在63歳、それほど昔のことを知っているという歳では有りませんが、小さかったころを思い出しながら天満、天五界隈のことを書かせていただきます。何年の出来事であったかは調査して正確に記載したいと思っていまいましたが、やはり古い記憶は曖昧で、私の記憶違いということも多々あるかと思えます。文献というようなものでなく、雑文として読み進めていただければ幸いです。

さてこの話をどこから始めようかと悩みましたが、皆さんが

最もよく知っているランドマークとして、JR天満駅から始めようかと思えます。天満駅を通るJRの路線は、今は大阪市を一周する環状線と呼ばれていますが、環状になったのはそれほど古い話ではなく、昭和36年（1961年）のことでした。国鉄の時代ですが、それまでは大阪駅と天王寺駅を結ぶ城東線と呼ばれていた路線が大阪市の西側を走っていた関西本線の貨物線と連結して環状線が完成したわけです。小さい頃は省線とも呼ばれていた記憶があります。城東線が環状線となった時に、ハタノ産婦人科で仕事をしていた看護婦さんたちが入場券で環状線一周を企てて、やはり途中で検札に見つかって支払いをさせられたという話が記憶の奥底から顔を出しました。まだ大阪駅に出入りする列車は蒸気機関車も多く、ピー、シュツシュツという音が天満界隈にも鳴り響いていたことも耳に覚えていま

す。

改札から北に出ると細い通りが北に延びていきます。以前の北錦町ですが、つい最近までこの通りの入り口には天満問屋街という看板が掛けられていました。天満市場が賑わっていたころ小売の八百屋さんなどが店を連ねていましたが、最近の天満界隈の事情と同じく、飲食店がこれに取って代わるようにな

り、問屋街とは言えなくなつたようです。今は天満駅前北本通りと呼ばれています。お店は通りの西側だけで、東側は赤いレンガの塀の仕切りが有つて、その向こうは延原倉庫の広い敷地です。実は明治のころは天満駅より北側、錦町、池田町、延原倉庫、ローレルハイツ北天満を含めた広大な土地は天満紡績という紡績工場だつたということです。後に東洋紡績に合併されますが、戦後は今の延原倉庫の敷地は関西軽金属工場の跡地で空き地となっていました。そこに昭和26年（1951年）、ここに大阪拘置所を移設するという話が持ち上がったそうです。拘置所が天満の繁華街に来るのは困ると、天四、天五の商店街の方々が反対運動を起こし、ついに昭和30年（1955年）、都島区の現拘置所の土地を所有していた延原倉庫と等価交換をして、現在はその空き地が延原倉庫となり、この問題は無事解決したということです。

細い通りを北に進むと少し通りは広くなります。この西角には最近まで楠野本舗という和菓子屋さんがありました。ご主人の高齢化もあり、他の店舗と同様に今は鶏のから揚げを売る飲食店になっています。見上げますと楠野本舗という看板だけがまだ残されています。ここを東に曲がって延原倉庫の北側を歩くとぶららてんまの表口に差し掛かります。天満市場の土地に大阪市とUR都市機構が建てた市場と賃貸マンションが共存した都市型のマンションです。天満市場の前身である天満青物

市場についてはいろいろなところでその歴史と触れ合うことがあるかと思ひますので詳しくは述べませんが、大川の北側に在つた天満青物市場は昭和6年（1931年）に中央卸売市場が出来た時に吸収され、一部残つていたお店が戦後池田町に移動し、天満卸売市場として商売を始めたのが天満市場の始まりです。私が大学生のころまで大阪中から青果を求めて車が殺到し、朝の3時頃から街は不法駐車で身動きが取れない状況でした。市場の南側では朝早くから青果のせりが始まり、一段落するのは昼前であつたようです。

この通りをさらに東に進むと、ローレルハイツ北天満の南側に出来ます。ローレルハイツの土地は東洋紡績の工場の跡地で、レンガ造りの工場が空襲で焼け、昭和40年半ばまでその焼け跡のままであつたと記憶しています。ここをみんなはレンガ塀と呼んでいましたが、天満市場の東の端から今の天満橋筋に向かう細い道には街灯も無く、空襲の焼け跡ということに畏怖があつて、夜にそこを通る人は多くは無かつたと思います。小さいころは肝試しの名所でありました。八杉クリニツクを左に見て、ここを抜けると今は谷町筋からの延長で天満橋筋と呼ばれる大きな道路に出ます。昭和30年代のこの道路は雨が降るとぬかるみの出来る細いがたがた道でした。この道を南に歩くと源八橋の西詰に出ますが、ここには大川からの水を引き込んだ営林局の貯木場があつて、よく魚釣りに出かけたものです。こ

ここからまだ南の東天満の交差点は、以前は空心町と呼ばれていました。ここは国道1号線が通る大きな交差点でしたが、これより北は狭い未舗装のがたがた道であったと記憶しています。

もとのローレルハイツに戻りますが、都島大橋の少し下流で、現在のロイヤルアーク花水都OSAKAというマンションの北側あたりで大川から堀川と呼ばれた支流が分岐し、この川は中之島まで流れていました。流れていたと書きましたが、子供のころはどぶ川と呼んでいて、決して美しい流れがあったわけではありません。この河を埋め立てて阪神高速を建設したので、この堀川の流れについては今の阪神高速をたどればよく理解できます。大川から分れて、天満橋筋の下を横切り、延原倉庫の東側からカーブして扇町の夫婦橋の下に至ります。そこから再びカーブして北区医師会会館の前を流れて天神橋と難波橋の間回りでも再び大川に合流していました。阪神高速の長柄ランプから扇町、南森町に掛けての連続したカーブはこの堀川に沿って道路を建設したからです。昭和30年から40年ころには中之島に貸しポート屋さんがあって、ポートでこの川を遡っていて扇町の夫婦橋までたどり着いたことに驚いた記憶があります。

天満橋筋を北に、ローレルハイツの東側を北に向かって歩いていきます。ローレルハイツの天満橋筋を挟んだ東の向かい側は、今は大きなマンション群になっていますが、天満橋筋と大

川の間には東洋紡績の社宅がありました。子供が多く、池田町の子供とはべったん、ビー玉などではライバルの関係にありました。ライバルといってもやつらはとてつもなく強くて、復讐戦の度にべったん、ビー玉を巻き上げられた記憶があります。ここはしばらくして取り壊され、昭和40年代初頭にはコスモボール？だったと思いますが、当時ブームであったボーリング場になって、その後今のマンションが出来るまでは倉庫か資材置き場であったように思います。

ローレルハイツの中ほどに東の出入り口があるのでここからローレルハイツの中に入っていきます。ローレルハイツが完成したのは昭和54年（1979年）二月のことでした。焼け跡だったレンガ塀が取り壊され、しばらくはゴルフの打球場になっていましたが、14階建ての大きな分譲マンション2棟が池田町にそびえ立ちました。戸数は1342戸を数え、これはこの界限には衝撃的な出来事でした。ドーナツ化現象で児童の数が減っていくばかりだった普北小学校は校舎を建て増ししました。市場は小売のお客が増えたので卸売りのお店から小売店に転身し始めました。池田町、天五辺りは活況に沸きました。若い子供連れのご家族が多かったのですが、37年が経過して、みなさんご高齢になりました。

ローレルハイツを西に抜けると池田町のメインストリート、池田町中央通りに出ます。今は業務スーパーになっているビル

に、今も東洋ショー劇場というストリップ劇場があります。昭和40年代には天満一帯には三軒のストリップ劇場がありました。東洋ショーのほか、天満駅の南側に天満座、天満座は大衆演劇からストリップ劇場に転身し、また大衆演劇の劇場に戻りましたが、いつのまにか廃業されました。そして菅栄町西の交差点の南側に平成23年末（2011年）まで営業をされていたナニワミュージックがありました。当時男性の注目を集める地域だったのでしよう。元に戻りますが東洋ショーの階下、1階には東映映画の封切り館がありました。鶴田浩二、高倉健のころです。東映の斜め向かいには今はなくなつた宝塚映画、その斜め前、現在のパラツイーナセシリア天満というマンションは日活映画の封切館、石原裕次郎、小林旭の時代です。その二筋西のレジュールアッシュ天神橋というマンションは、以前東宝映画の封切館であつた第一劇場の跡で、ここでは怪獣映画、森繁久弥、クレージーキャッツなどが上映され、子供のころにはよく通つたものでした。この通りに4件の映画館が集まつていました。少し離れた旧吉山町にも洋画を掛ける映画館があり、天五の交差点を西に渡つた中崎町商店街にも2軒、天六にも数軒の映画館がありました。テレビの普及と共にそれぞれ廃業されていきましたが、この時代の天満界限は娯楽の殿堂として君臨していたようです。

右に曲がるとハタノクリニクという筋を越えてもう少し西

に歩きますと、天五診療所を左に見て、天五の交番所の前が緩い坂になっているのに気付きます。ここが東洋紡績の工場の入り口だったそうです。少し前までここは石畳でしたが今は舗装され、坂であることが唯一工場跡の名残となっています。交番を過ぎて南に折れて天満駅の方向に少し行くと一松マーケットという市場がありました。今も一松食品センター、天五横丁として飲食のお店に間貸しをされていますが、昭和30年台には街の台所として繁盛していました。東側から商店街まで抜ける四列の市場でした。火事が起き建て替えられた際に左右二列になり、今も八百屋さんやかしわやさんが残っていますが、ここも飲食店に占領されつつあります。この横丁を西に抜けると天神橋五丁目の商店街に入ります。このアーケードを北に向かうと天五の交差点から東に延びるアーケードを過ぎて天六に向かいます。

やはり天神橋商店街についても少し話しておかなければならないでしょう。十丁目とも呼ばれ日本で一番長い商店街とされています。天神橋北詰から北に長柄まで一丁目から十丁目まであるので十丁目商店街という愛称で呼ばれているのですが、八丁目以北も天神橋商店街であつたのかは詳しくは知りませんが、天神橋商店街で始めてアーケードを架けたのは天五商店街で、昭和32年（1957年）のことです。今は二丁目から六丁目までアーケードが付けられ、雨の日でも濡れることなく買い

物が出来ませんが、それ以前は商店が向かい合わせに並んでいただけの商店街でした。多くのお店では一階をお店にして、二階へは急な階段を上ってそこで生活をされていました。アーケード建設にはいろいろと難問があったようですが、アーケード完成のセールを始めた時に突然と大雨が降り出して、天四や天六の商店街で買い物をしていたお客がいつせいにアーケードの架かった天五商店街に流れ込んできて、大もうけ。苦勞してアーケードを架けた甲斐があったと喜んだという話を聞いています。そんなこともあったからか、天六、天四でも順次アーケードを架けることとなりました。天四、天五、天六の商店街は衣料品のお店が多く、今はイオンに吸収されましたが、スーパーニチイも天四が発祥の地でした。洋服、アクセサリーなどの高級品を置くお店も多く、梅田の地下街が出来たころに梅田に移っていかれるお店も何軒かあったようです。今は皆さんも高齢となり、お店をやめていかれる方も多くなり、商店街は様変わりしています。

商店街をしばらく歩くと松井という呉服屋さんとMIKという化粧品屋さんの中の細い通りに差し掛かります。ここが天五と天六の堺になっていますが、これを東に曲がると川島産婦人科を通り過ぎて南北の通りにぶつかります。昭和30年から40年初頭にはこの通りには夜店が並びました。石井クリニックの前の通りですが、月に2〜3度だったと記憶しています。先ほど

話しました東洋紡績の入り口だった坂あたり、天五のアーケード東詰から北へカーブして現在の菅栄町西の交差点まで3〜400mほど続く夜店でした。輪投げ、ヨーヨー釣り、射的、うなぎ釣りと今でも縁日で見かけるものと同じだったと記憶しています。小さかった私達には大きな楽しみでした。そのころ夜店は大阪中で日を変えて開かれていたようですが、天満の夜店もいつの間にか無くなりました。この通りの交通量が増えたからでしょうか。いづころなくなったのか、記憶にありません。

この通りを北に進むと都島通りに出ます。この通りの向こうは旧大淀区でここが旧北区の北の端ということになります。これを西に、馬場耳鼻咽喉科を過ぎて天六の交差点に向かうと現在三井住友銀行や住まいの情報センターの入っている大きなビルがあります。このビルの東半分には少し前まで北市民館と呼ばれた建物が在りました。つたの絡まる古いビルで、大正10年（1921年）に地域の民生活動の中心となるように設立されたビルでした。当時この辺りから北はスラム街といった状況で、今で言う福祉事業を担っていたようです。そういった活動は近年終了し、文化教室や落語会などが開かれていたので、昭和58年（1983年）、老朽化が進んだこともあり、役目を終わり撤去されました。北市民館のこと、北保育所のことについてはこの南側で診療をされている太田診療所が詳しい

と思います。

もう一つ忘れてはならないことはここで起こった天六のガス爆発です。昭和45年（1970年）4月8日、地下鉄谷町線の工事中に都市ガスが洩れ、これが爆発を起こし、79名がお亡くなりになりました。北区内の診療所にも多くの怪我人が運ばれたそうです。この事故の際の北区医師会の活動については北区医師会誌147号にも掲載されています。ご覧ください。

天六の交差点を南に曲がります。この南北のバス通りが今は天神橋筋と呼ばれる道路です。この道路には昭和41年（1966年）まで市電が走っていたので、この界限では市電がなくなつてからもこの道を電車道と呼んでいました。また市電は中之島をこえて堺筋を南下したので、路線名が堺筋線だったことや、昭和44年（1969年）から営業を開始した地下鉄も堺筋線であつたことで、この道は以前は堺筋と呼ばれていたように記憶しています。トロリーバスと呼ばれる電気バスも運行されていました。

天五の交差点で東に曲がりアーケードを歩くと、先ほど商店街に入った地点に戻ります。このアーケードは天五の交差点から東西に100mほどですが、天神橋筋商店街で唯一アーケード同士が交差するところです。ここには昭和40年台初頭から四軒のお寿司屋さんが軒を並べ、天満寿司屋街と呼ばれるように、天五の名物となっています。

このアーケードを抜けて先ほどの天五の交番の前を通り、権兵衛という関東だきの屋台を過ぎて、次の辻を北に曲がるとハタノクリニックに帰ってまいります。少し疲れました。ぶらぶらと歩いてみましたが、今回歩かなかつた通りや辻はたくさんあります。いずれそれらについても書き残しておきたいとは思いますが、今回歩いてみて街の様変わりに驚かされました。特にこの界限にこれほどの飲食店が並ぶとは思いませんでした。時代は変わって行きます。まだしばらくはこの町の移り変わりを楽しませていただきたいと思います。